



特定非営利活動法人

おもしろ科学たんけん工房

2008年7月1日発行

たんけん通信 第24号

青少年のための

科学の祭典

神奈川大会

県立青少年センター 主催

平成20年8月10日(日)10:00~16:00

おもしろ実験ショー；科学工作など

会場：紅葉坂 県立青少年センター

〒220-0044 横浜市西区紅葉ヶ丘 9-1

桜木町駅から徒歩 10分

おもしろ科学たんけん工房も
出展するので、ぜひ見に来て
ください。

科学体験活動推進スタッフ(インストラクター)

今年度第1期研修が始まりました。

定員30名の募集に対し、33名の応募がありました
が、内2名は締め切り後の応募。31名を受け付けまし
たが、実習の日程が合わないなどで辞退があり、実習は
23名でスタートしました。

男女共同参画センター横浜北との協働事業です
実習オリエンテーション：6月7日(土)

アートフォーラムあざみ野 セミナールーム
実習は 6月下旬から10月中旬までの予定。

2008年度 第1期

養成研修がスタート

横浜市教育委員会後援

(財)横浜市青少年育成協会との共催



2008年5月31日(土)午前、男女共同参画センタ
ー横浜(戸塚)のセミナールームで、特定非営利活動
法人おもしろ科学たんけん工房の、第6期通常総会が
開催されました。

第6期 通常総会 開催

総会では、2007年度の事業報告が行われ、収支計
算書を含む決算書と事業報告者が承認されました。

前年度決算と比較した 収支計算書を2ページに掲載
しました。また、2002年のスタートから6年間
のおもしろ科学体験塾への参加児童数の推移も、表とグラ
フで示しました。

⇒ 2ページをご覧ください。

なお、総会で承認された詳細な収支計算書と事業報告書
は、神奈川県在所轄部署に提出し、公開されますので、
どなたでも、閲覧することができます。また、県が管理
するホームページでも検索閲覧が可能です。

所轄部署：県民部 NPO協働推進課

<http://www.pref.kanagawa.jp/sosiki/kenmin/0223/index.html> (現在は06年度の情報をPDF
ファイルで見ることができます)

おもしろ科学たんけん工房の会員や、活動スタッフの 推移状況(事業報告書から抜粋)

時点	内訳	正会員 (体会者を 含む)(a)	サポータ (準会員) (b)	(a+b)の内 実働 メンバー
2002/ 4/ 1		17	4	12
2003/ 3/31		27	8	21
2004/ 3/31		36	15	37
2005/ 3/31		37	20	43
2006/ 3/31		41	51	75
2007/ 3/31		60	70	112
2008/ 3/31		70	71	125

(a) (b)には非実働の会員も含まれます。

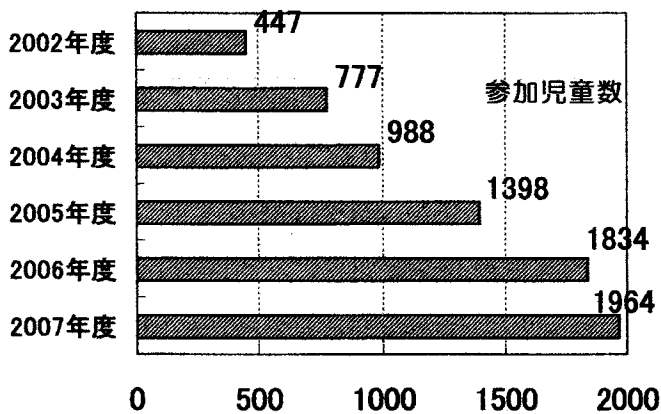
前年2006年度 収支決算の概要 対比 2007年度 収支決算の概要

科 目	金額(千円)	内訳金額
収入		
会費・入会金収入	756	
正会員会費		432
賛助会員サポート		324
事業収入	2,144	
科学塾参加費		1,868
育成事業参加費		276
寄付金	335	
企業からの寄付		0
個人寄付		335
助成金・補助金収入	1,425	
受取利息雑収入	1	
当期収入小計	4,661	
その他収入	2,180	
前期繰越金		2,180
収入合計	6,841	
支出		
事業費支出	3,749	
1 科学塾		2,254
2 普及啓発事業		191
3 ネットワーク		222
4 発掘養成事業		1,082
管理費支出	667	
当期支出合計	4,416	
当期収支差額	(245)	
次期繰越収支差額		2,425
支出合計	6,841	

科 目	金額(千円)	内訳金額
収入		
会費・入会金収入	1,036	
正会員会費		504
賛助会員サポート		532
事業収入	2,140	
科学塾参加費等		2,017
育成事業参加費		123
寄付金	427	427
企業からの寄付		0
個人寄付		427
助成金・補助金収入	624	
雑収入	3	
当期収入小計	4,231	
その他収入	2,425	
前期繰越収支差額		2,425
収入合計	6,656	
支出		
事業費支出	2,531	
1 科学塾		2,014
2 普及啓発活動		227
3 ネットワーク		62
4 発掘養成事業		228
管理費支出	743	
当期支出合計	3,274	
当期収支差額	(957)	
次期繰越収支差額		3,382
支出合計	6,656	

合計 おもしろ科学体験塾 会場 別 参加児童数の推移

年度	参加児童数	湘南台 高校	フォーラム 〔戸塚〕	鶴沼 中学校	永野 小学校	こども 科学館	田園都市 線沿線 あざみ野	柏陽 高校	その他 地区
2002年度	447	254	193	0	0	0	0	0	
2003年度	777	243	269	265	0	0	0	0	
2004年度	988	325	262	289	97	15	0	0	
2005年度	1398	185	236	286	189	232	31	180	59
2006年度	1834	236	227	295	251	215	246	364	
2007年度	1964	247	265	242	242	225	256	247	240
累計	7408	1490	1452	1377	779	687	533	791	299



おもしろ科学体験塾に参加した児童数の会場別推移表〔上〕と、合計児童数の推移グラフ(左)

当初 2会場スタートした「おもしろ科学体験塾」ですが、ごらんのとおり、8会場を超えて拡がりました。子どもたちが自転車で行けるところに、あまねく科学体験塾を！という願いも決して単なる夢ではありません。

参加児童累計が1万人を超えるのは、何年何月でしょう？

おもしろ科学たんけん工房 藤沢地区グループ便り No. 5

特別行事：恒例の「中学生のための飛行機教室」が、5月17日湘南台中学校を会場にスタートしました。

2004年に始めた飛行機教室は今年で5回目になりますが、教室で作った模型飛行機が毎回大会で好成績を上げるため人気が高くなり、今年は大盛況で9校39名の生徒の他、科学部顧問の先生方数名も参加されました。初日の5月17日と補習日の5月18日(会場：六会中学校)では、基礎コースのスチレンペーパーを使ったライトプレーンを製作、6月8日は早朝7:30から湘南台中グラウンドでテストと調整のための飛行会を実施した後、上級コースでは「竹ひこ」と「紙」を使った昔ながらのライトプレーン作りに取り組みました。飛行機グループの工房会員として、(以下敬称略)宮地、柴田、森島、畑尾、安藤、沼田、郷の他、元賛助会員の関沢、六会中学卒業生の和賀井が指導に当たりました。この後辻堂海岸公園での記録会を経て7月の大会に臨みます。



飛行機教室
スチレン翼ライトプレーンの室内テスト飛行



小雨の中ヒコーキを飛ばす子ども達

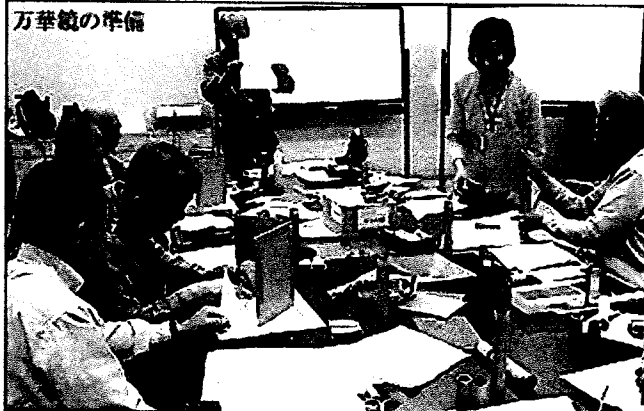
科学塾 (括弧内は会場名)：

4月から5月にかけて、空気の重さや圧力、体積の変化を実験する「気体の力(鶴沼)」、スチレンペーパーでヒコーキを作って飛ばす「三角翼のヒコーキ(湘南台)」、カラフルなゼリーボールを作ったり、ひと色の絵の具がいくつもの色に分かれる実験「にじ色の涙(鶴沼)」、吸水ポリマーを利用した実験やスライムを作って見る「水をきれいに(湘南台)」などの科学塾が行われましたが、「ストローロケットが飛ぶ理由がよく解った—気体の力」、「昆布のヌルヌルから玉が出来ることがよくわかった—にじ色の涙」、「じぶんでオリジナルのかみヒコーキを作りたい;宙返りを不思議に思いました;もっと重たくしてもとぶのかな—三角翼のヒコーキ」、など、子ども達の感想がありました。



作ったゼリーボールを拾い出す

万華鏡の準備



準備会：

一つの科学塾を実施する前には、指導に万全を期すため、少なくとも一度は子ども達に代わって工房の会員が作ってみたり、材料や部品の下ごしらえをする準備会(リハーサル)があります。写真は鶴沼中学で行う万華鏡の準備会の模様で、指導にあたっていているのは横浜東グループ小林さんです。

子供達の笑顔が私達のやりがいです…子供達と一緒に自分達も楽しもう

取材と記事制作：藤沢地区グループ：郷、品田

横浜東地区グループ便り

「たんけん通信4月号」でもお知らせしましたが、横浜市磯子区では07年度の岡村小学校での科学塾に引継ぎ、4月から杉田小学校と汐見台小学校で交互に実施する科学塾が始まりました。開催場所となる両校は勿論のこと、近隣の小学校からもご理解とご協力をいただき、幸先の良いスタートを切ることができました。

5月までで両校共に1回目が終了し、いずれも定員を上回る申し込みがありました。椅子を追加するなどして何とか希望者全員を受け入れることが出来ました。時間やスペースの関係もあり一律ではありませんが、先生方にも児童と同じ形で工作に挑戦したりご挨拶をお願いしたりと、様々な形で科学塾に加わって戴きスタッフ一同大いに感謝しております。(大熊)

今回は運営のスタッフとしても関わっているメンバーからのメッセージを二つご紹介します



◎杉田小、汐見台小体験塾受付担当の明石です。

申し込みには、インターネット・FAX・郵送と三つの入口がありますが、特にFAXでお申し込みされる方で「非通知」で送られる方が数多くいらっしゃいます。

「非通知」の場合、ファックスの調子が悪いと、内容が判読できず申し込みしていただいた方にご連絡が取れなくなってしまい、確認連絡が取れずにご迷惑をお掛けすることになってしまいます。それと、自宅外(学校・会社・コンビニ等)から送信なさる時には、TEL/FAX欄に自宅FAXの有無を、忘れず明記しておいていただければ、その後の手続きがスムーズに運びますので、よろしくお願いします。

また、通知が届かなかった場合やご質問等があれば、遠慮なくご連絡を戴ければお答えしますので、どしどしご応募くだ*

磯子区 杉田小、汐見台小での 科学体験塾が始まりました!



巨大な万華鏡世界を
保護者の方と一緒に
楽しみました

08.5.10
汐見台小
万華鏡



飛べ!
高く!

08.4.19

杉田小

ヘリコプター

*されば嬉しい限りです。元気で体験塾でお会い出来ますこと、楽しみにしております。(明石)



◎テーブル毎の自己紹介や発表などを通じて子どもたちが活発になり次第に親しくなっていく様子が窺えました。チラシ一枚から初対面の児童の中に入っていくのは本人にとっても保護者の方々にとっても決断がいることではないでしょうか。

こんな風に頑張っているお子さんから他のお子さんに話が伝わって、一人でも多くの子もたちがこういう機会に出会えてくれたらと願っています。(宮内)

白鳥と黒鳥

東G 清水洋一記

岩手・宮城内陸地震や中国四川省の大地震、またミャンマーのサイクロンなどの被害を見て、一夜にして人間の築いた小さな幸せを自然が簡単に奪うことの非常さを感じました。被害に遭われた方々の無念さを思うと言葉がありません。

地球においてはあくまで自然が主人であって人間はヤドリカのようなものです。石油の大量消費は人間の自然に対する挑戦で、それが地球温暖化の原因とすれば、それは自然からのしっぺ返しとも言えるでしょう。石油エネルギーを中心とした文明が一つの終点に近づいたのかもしれない。

これを克服するのは人間の知恵です。それはまさしく子どもに対する教育です。金儲けをして何が悪いなどとうそぶいているような人間を作らない教育です。

先日、千葉県で白鳥と黒鳥を殺した子供がいました。またテューリップを折ったお父さんらしき大人もいました。恐ろしいことですが、この世代を育てた教育の一つの結果かもしれません。

人間はもっと自然に目を向けるべきです。日本野鳥の会では野鳥も人も、地球の仲間と自然との共存を掲げています。地球温暖化により、野鳥の渡りや羽化の時期も少しずつ変化していると聞きます。自然観察により小さな変化を見逃さない、実験観察教育が重要です。また、山階鳥類研究所では、アホウドリのヒナ十羽を伊豆諸島の鳥島から、小笠原諸島の鴎(むこ)島へ移して人工繁殖させるという大変地味な作業をしています。このような作業を少しでも子供に体験させたいものです。

おもしろ科学たんけん工房の活動も、必ず何人かの子供たちには記憶に残り、その子の人格形成に役立つものと信じます。横浜・藤沢など、たんけん工房の経験者から科学者がであれば望外の幸せです。

第5面～7面には、スタッフのプロフィールを紹介しております。(今号は9名を掲載しました。)

- Q1 生まれた場所と、現在お住まいの場所;簡単な略歴。
- Q2 たんけん工房に参加するようになったいきさつと、動機
- Q3 たんけん工房でやってみたいことはどんなことですか
具体的なテーマでも、夢のイメージでも。
- Q4 趣味や道楽は?
- Q5 子どもたちに ぜひすすめたいことはなんですか?
- Q6 その他付け加えたいことがあれば、ご自由にひとこと。

二宮 健之 さん

(横浜北グループ)

- A1 :
生まれた所 : 川崎市
小・中学校 : 東京都多摩市 高校大学 : 横浜市
- A2 : 広報を見て知りました。
小さい時から、いろいろなジャンルの実験教室に数多く参加してきました。今度は、自分が実験教室のお手伝いをしたいと思い参加しました。
- A3 : 多くの子供たちとにかく参加してもらい実際体験することの楽しさを知ってもらいたいと思っています。
- A4 : 大学のサークルに入っていて、そこでロボットの製作を行っています。
- A5 : いろいろな事に興味を持ち、チャレンジして、自分に
とって何が一番楽しくて夢中になれる事かを見つけてほしいと思っています。



八木一夫 さん

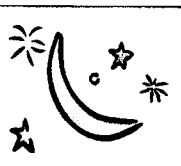
(横浜東グループ)

- A1 : 神奈川県(茅ヶ崎)生まれ。現在、横浜市(港南区)在住。
私立女子校に永らく勤め昨年退職。今は公立中学で臨時の非常勤。
- A2 : インターネットで偶々HP に出会ったことがきっかけ。
その趣旨と活動に共感し思い切って参加。行き届いた組織運営と高度な活動内容の充実感は想像以上!
当会との出会いを有難く感じています。
- A3 : 物に直接触れることを通して、科学的本質をつかまえ、
また、子どもも大人もともに人間として心を開かせるような、そんな楽しい魅力的な実験、工作を皆でわいわいしながら創り出せたらと思います。
- A6 : 永遠の少年、少女のような皆さんの和やかな温かい雰囲気は何より嬉しいですね。子どもたち以上に、私たち自身が一番「夢」を追い求めているのが、この会の原動力なのかもしれません。子どもたちにも私たちにも未知の可能性がさらに広がることを期待し願っています。

森越 彩 さん

(横浜北グループ)

- A1 : 岩手県出身です。就職のため横浜に来て、4年目を迎えました。仕事は輸入食品の検査をしています。
- A2 : 何らかのかたちで科学を楽しみたいと思っていたところ、タウンページに載っていたインストラクター養成講座の案内を見つけ、応募しました。
- A3 : 食品を使ったテーマを作りたいのですが、見た目におもしろく、かつ安全なものとなると案外難しいです。今は既存のテーマを勉強中。科学塾では子供たちへの接し方も重要ですが、まだまだごちないなので早く慣れたいと思います。
- A4 : うちにはテレビが無いので、音楽を聴いたり本を読んだりしています。音楽はブラックミュージック、本は人類史や科学関係のものが好きです。
- A6 : 私は一応20代ですが、15でオヤジと呼ばれていた様な人間なので、あまり珍しがらずに仲良くしていただければ幸いです。



青春とは



歳を重ねただけで 人は老いない。
夢を失ったとき はじめて老いる。
歳月は 皮膚にしわを刻むが
情熱を失ったとき 精神は しわだらけになる。

(サムエル・ウルマン 新井満 訳より)





水野 清 さん

(横浜北Gp)

A1: 富山県の西部、砺波地方の散居村に囲まれた小さな田舎町に高卒まで、その後京都に4年、東京・川崎・横浜に27年、徳島に16年、定年後横浜に戻って現在に至っています。現役のときは、大学で磁性体・有機導電体・超伝導体についてNMRを主要な実験手法にして研究していました。私が属する物理学会では、最近の中学生・高校生の理科(特に物理)離れが憂えられています。しかし、中・高の理科教育を云々する前に、なすべきことはないでしょうか。

A2: 小学生のうちに、身の事象や自然現象に興味を持ち、なぜ?どうして?と疑問を抱き、考えて理解しようとする態度を養うことが肝要です。たんけん工房の活動に私の拙い経験が少しでも活かせられたらと思いました。

A3: 今は、種々のテーマのアシスタントとして、私自身が体験中です。新しいテーマを探る上で、体験塾で行っている実験の条件(温度や圧力など)を、危険を伴わない範囲で拡大することが可能かどうかを考えてみたいと思っています。

A4: あるN響元フルート奏者にフルートを習っていますが、要求されるレベルが高いので苦労しています。呆け防止には大変有効でしょうが。体の老化防止には、テニスや卓球をしています。

A5: 物理を教えていて感じたことの一つは、最近の学生は日常生活での実体験が乏しいということでした。子どもたちには、もっと外に出て遊んでほしい。習い、学ぶだけでなく様々な遊びの中で色んなことを体験して欲しい。その体験を見直すところから科学する心が芽生えます

- Q1 生まれた場所と、現在お住まいの場所、簡単な略歴。
 Q2 たんけん工房に参加するようになったいきさつと、動機。
 Q3 たんけん工房でやってみたいことはどんなことですか
 具体的なテーマでも、夢のイメージでも。
 Q4 趣味や道楽は?
 Q5 子どもたちにぜひすすめてみたいことはなんですか?
 Q6 その他付け加えたいことがあれば、ご自由にひとこと。



仁科 甫啓 さん

(横浜北 Gp)

A1: 生まれは風景としては最高である北アルプス麓の信濃大町(長野県)、今住んでいるところはこどもの国の近くの青葉区奈良町です。横浜に住むようになったのは30年前ですが、勤めの関係上、15年ほど前から札幌、福井に住み、昨年3月定年で横浜に戻ってきました。

A2: 定年後、家内での粗大ごみならないためボランティア活動をしたいと思っていたところ、おもしろ科学たんけん工房のチラシを見て参加させてもらうことにしました。

A3: 高校生を相手に、化学と生物合わせた様な実験を通じて理科のおもしろさを理解習得させたいと前から思っていました。おもしろ科学たんけん工房への参加で色々勉強させてもらいたかったです。

A4: 趣味や他に活動はしておりません。実は横浜に戻りましたところ、知人に依頼されて特定検診や人間ドックなどの血液や尿成分を測定する検査センターに週4日働く事になり、このおもしろ科学たんけん工房に参加しにくくなってしまいました。恐縮しています。

スタッフのプロフィール

A3: 科学や理科とはあまり接することがないように思っていました。実は自分が生活している中で切っても切り離せないことだと感じるようになりました。これからの生活がより良いものとなる様に子供たちの「そうか、わかったぞ。」の声を沢山聞くことができたならとおもっています。

A4: お菓子作り(いつの日か工房の皆様にもご賞味いただける事を夢見しています。)

茶道(少しでも利休に近づけたら.....)

A6: 何故か、私に理科支援員のお話が舞い込みました。不安もありますが、工房で皆様に授けていただいた知識で乗り切りたいと思っています。ぜひ、理科に不慣れな私にお力をかしてください。



鈴木 恵子 さん

(横浜北 Gp)

A1: 私は横浜市のヘソの位置にあたる保土ヶ谷区で生まれ、現在は緑区に住んでいます。どちらも、田んぼや畑が多い地域です。生まれてから一度も横浜以外の土地へ出たことがありません。我が家は先祖代々横浜にあるので海から遠くても私はハマッコだと思っています。

A2: 動機は二つあります。1つは学童で子供たちと一緒に過ごしていた時カッターナイフやひごのかみのかみの扱い方に危険を感じました。これは何とかしなくてはと思っていた時に養成講座のチラシに出会いました。そして2つめは自分も子供たちと一緒に身につけようと思い「うん、これだ。」

第5面~7面には、スタッフのプロフィールを紹介しております。(今号は9名を掲載しました。)



阿部 弘 さん

(横浜北 Gp)

- A1: 群馬県伊勢崎市生まれ。横浜市旭区在住。旭硝子、九州大学で材料科学の教育と研究。
- A2: 石井さんから偶然話しをお聞きして、退職後やりたいことと一致していた。
- A3: 紙飛行機、ヘリコプター、ジェットコースター、テクテクザウルス等、大変楽しかった。技術アシスタント(スタッフ)として、これからも子どもたちと一緒にしたい。ホーパークラフトや視覚のいたずら、温度と科学現象等、頭をよぎります。
- A4: 油絵、写真、テニス、英会話。地域活動のお手伝い。
- A5: なんでも良いから得意なことを一つ持ってほしい。すなおに好きなことをしてほしい。
- A6: たんけん工房は素晴らしいです。これからも子供たちの今日と明日のために一緒にできればと思います。科学現象の理解も良いですが、作品を作り上げ、動かすときの笑顔に感動します。

山本 浩 さん

(横浜東 Gp)



- A1: 道産子です。横浜に住み、東京勤務の生活が人生の大部分です。根っからの材料の応用屋です。
- A2: ネットで工作キットを検索していたとき、たんけん工房のHPに出会いボランティア募集があるのを知りましたが、最終の募集には間に合わず、2007年の一期生になりました。
- A3: 化学系のアイテムが少ないので何か提案できないかと模索してきましたが、藍の生葉の叩き染めのアイテムをすでにスタートを切って会員の皆さんにご協力をおねがいできる段階にきました。今年はポット苗を育てていただき、苗がどう育つかの観察をして、うまく育てば叩き染めを経験していただきます。
- 科学塾で子どもたちに叩き染めを体験してもらい、翌年は種から藍を育てて叩き染めをやらしてもらえたらと思っています。
- A4: 草花を育てること。
- A5: ・たくさんの事に興味を持って欲しい。
・良く分からないこともたくさんあることを知って欲しい。
・手作業の道具がたくさんありますので多くの道具を使う経験をして欲しい。



佐藤 孝一 さん

(横浜東Gp)

A1: 1936年 横須賀市に生まれ、

現在は、横浜市金沢区町屋町で シーサイドラインと自動車の流れを見ながら過ごしています。

- A2: 区役所の棚に在った研修生募集のチラシを見て、小学時代から、手じかにある材料で、おもちゃを作って遊んだ事を思い出して申し込みました。
- A3: あそびの中で、考えたり、作業をしたり、子供と一緒に楽しく過ごす事。
- A4: 鉄道模型 高級品は、在りません。鉄道敷地は、玄関内の2700mm×600mm キットの製作、中古品、ジャンク品を、とりあえず動くようにすること。
- A5: ものを大切に扱う事
- A6: 光学関係の町工場で、一般に出ていないものを創っていました。(受注生産)

ご存知ですか？

横浜子ども科学館は4月1日から新しい名前になりました。

はまぎん子ども宇宙科学館

指定管理者 財団法人横浜市青少年育成協会

<http://www.ysc.go.jp/ysc/>

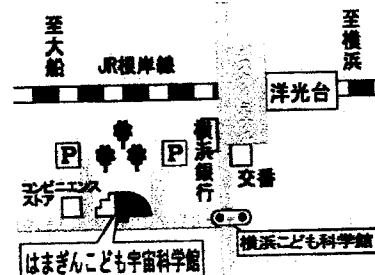
根岸線洋光台駅

下車徒歩3分

上大岡駅および横浜市営

地下鉄港南中央駅から

バスがあります。



おもしろ科学たんけん工房は(財)横浜市青少年育成協会と密接な連携のもと、はまぎん子ども宇宙科学館で「実験工作教室」(科学体験塾)を共催しています。

“おもしろ科学体験塾” 2008年度8-11月の予定

予定表 変更する場合がありますので、参加申し込みは募集のチラシや、ホームページの案内を見て行なってください。

実施日	開催場所	テーマ/タイトル
8/2	希望が丘小	船を作ろう
8/9	日大六会キャンパス	セミの羽化観察会
8/30	鉄小	シャボン玉のふしぎ
9/6	杉田小学校	水をきれいに
9/13	鵜沼中学校	風力車を作ろう
9/13	柏陽高校	ブザーを作ろう
9/13	長津田小	光のふしぎ/マルチポ
9/20	永野小学校	ホバークラフトを作ろう
9/20	こども科学館	電池(レモン電池など)の実験
9/20	アートフォーラム	ICラジオを作ろう
9/27	湘南台高校	空気の重さ/圧力のふしぎ
9/27	フォーラム	ICラジオを作ろう
10/4	夕見台小学校	コマⅠ_よくまわるコマ
10/4	希望が丘小	紙ヒコーキB
10/11	鵜沼中学校	ヘリコプターを作ろう
10/11	永野小学校	電池(レモン電池など)の実験
10/11	柏陽高校	ヘリコプターを作ろう
10/18	こども科学館	紙コップヘッドホン
10/18	鉄小	ふしぎなヘロンの噴水
10/25	湘南台高校	コマⅡ_マクスウェルのコマ
10/25	フォーラム	磁石と電気/モーターを作ろう
11/1	柏陽高校	ふしぎなヘロンの噴水
11/1	杉田小学校	電池(レモン電池など)
11/1	長津田小	風力車を作ろう
11/15	鵜沼中学校	コマⅡ_マクスウェルのコマ
11/15	こども科学館	にじ色の涙、隠れた色探し
11/15	仲町台地区センタ	テクテクザウルスを作ろう
11/22	湘南台高校	紙コップヘッドホン
11/22	永野小学校	ゲツゲツUFOを作ろう
11/29	フォーラム	風向計を作ろう

* フォーラム=男女共同参画センター横浜(戸塚)

* アートフォーラム=男女共同参画センター横浜北(あざみ野)

ボランティア スタッフ募集

主として在宅でできる事務を手伝ってくださる方

電話やFAXを使って

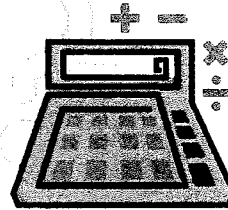
情報の中継

FAX送受信

携帯やパソコンで

メール連絡

など



パソコンでエクセルを扱える方であれば

名簿の管理

会計帳簿記入

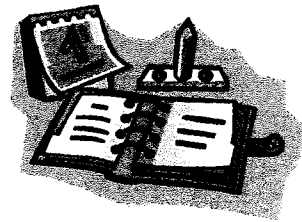
ホームページを作る

方であれば

ホームページ作成の

アシスタント

※ 年齢を問わず、お手伝いいただける方を探しています。(資格=パソコンでEメールできる方)



お問い合わせ、ご応募は

TEL/FAX 045-710-2679 安田まで

Eメール:khyasuda@ga2.so-net.ne.jp

2008年度第2期

科学体験活動推進スタッフ養成研修

＜主としてインストラクターを目指す方＞

会場:はまぎんこども宇宙科学館

共催:(財)横浜市青少年育成協会

後援:横浜市教育委員会

参加者募集 始まります

詳細は 同封チラシ、ホームページ を
ご覧ください

申込期間 8月1日～20日

実習オリエンテーション:9月6(土)

実習:10月下旬～12月末

集合研修:4日間あり